

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度 第2回上越市学校適正配置審議委員会

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市立小中学校における適正配置の取組状況について（非公開）
- (2) 安塚中学校、浦川原中学校、大島中学校の統合に向けた準備状況について（公開）

## 3 開催日時

令和5年2月9日（木）午前10時から

## 4 開催場所

教育プラザ研修棟 大会議室

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 非公開の理由

上越市立小中学校における適正配置の取組状況については、市の機関内部における意思形成過程に係る内容のため非公開としました。

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：歌川孝（委員長）、遠藤和英、大島章子、諸岡研史、真野明日香、北澤正彦、  
小山修
- ・事務局：早川教育長、市川教育部長、瀧本教育総務課長、小林参事、佐藤副課長、  
小酒井企画係長、八木主事

## 8 発言の内容

### (1) 開会

(佐藤教育総務課副課長)

ただ今から、「令和4年度 第2回上越市学校適正配置審議委員会」を開会いたします。  
委員の皆様には、ご多用の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、7名の委員の皆様からご出席いただいております。

はじめに、委員の交代がありましたのでご報告いたします。

本日は欠席となっておりますが、北峰 恵祐委員です。任期は、令和4年7月1日から  
令和5年3月31日までであります。

上越市学校適正配置審議委員会設置要綱第6条第2項の規定、委員の半数以上の出席

により、会議が成立していることをご報告いたします。

本日の会議時間は1時間半程度とし、11時30分頃の終了を予定しております。

## (2) 挨拶

(佐藤教育総務課副課長)

続きまして、教育長の早川がご挨拶申し上げます。

(早川教育長)

皆様、おはようございます。本日は大変お忙しい中、審議会にお集まりいただきましてありがとうございます。日頃から上越市の教育行政推進にご理解とご協力をいただいていることに、改めて御礼を申し上げます。

昨年5月以来、9か月ぶりの委員会ですが、この間いろいろな動きがありました。ご承知のように、合併後では初めてとなる、大島中学校、安塚中学校、浦川原中学校といった、地域自治区を越えた3つの中学校の統合に向けて、準備が着実に進んでいるところであり、予定では令和6年度の開校を目指して、鋭意取り組んでいるところです。また、議会での一般質問、あるいは常任委員会での所管事務調査においても、この学校適正配置については、非常に多くのご意見やご質問があり、多くの市民の方々から関心を寄せられているところでございます。少子化になかなか歯止めがかからず、この適正配置の取組の必要性が高まっている一方で、昨今のコロナ禍において、改めて学校の存在意義や適正配置のあり方について、様々な議論が寄せられているところです。

学校というものは、子どもの学び舎としての教育的な働きももちろんですが、地域のプラットフォーム的な拠点としての社会的な機能、そして、地域住民にとって心の拠り所、精神的支柱ともいべき精神的な機能といった、いろいろな側面を持っている施設です。これからの学校は、単に子どもの人材育成というだけではなく、地域の人々をつなぐまちづくりの拠点としても、大きな期待を寄せられているところでございます。適正配置の話の中で、学校の統廃合と地域の振興は別の次元で整理していかなければならないということをお示していますが、改めて、学校の学び舎としての機能を高めていくという教育論をお示ししながらも、地域と学校とのつながりを維持していくことが大きな課題になっております。

加えて昨今、不登校の子どもたちが大変増えている状況でございます。令和3年度の調査では全国で24万5千人ということで、上越市も決して例外ではありません。様々な困難を抱えた子どもたちの居場所や学びの保障をどうするか。これが喫緊の課題となっています。

現在国では、空き校舎の利用や小規模の学校の利点をいかした不登校の特例校といった動きが積極的に推進されているところです。こうした動きがこれからも進んでいくのだらうと思いますので、こういった新しい課題も視野に入れた対応をしっかりと考えていかなければならないという時期でございます。

本日は、適正配置の状況について、現在の取組、上越市のこれからの学校や学区のあり方、子どもたちにとって望ましい教育環境を整えるために、ぜひ委員の皆様それぞれの立場から、忌憚のないご意見をいただければと思っております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(佐藤教育総務課副課長)

続きまして、歌川委員長からご挨拶をお願いいたします。

(歌川委員長)

早いもので、前回5月の会議から9か月も経ったのだなと思ひますし、その間、新聞報道等で学校の統廃合等について伺ってまいりました。今ほど早川教育長からお話がありましたように、上越市ではこの間、多くの皆様方のご理解とご支援をいただきながら、学校の統廃合等を進められてきたこと、本当に感謝申し上げたいと思っております。

また、隣接する市町村の統廃合等についても、それぞれその地区に合わせた形で進んでいると感じております。こういった実態を見ていると、かつては教育委員会事務局が主導する流れがありましたが、最近では地域からの声が少し高まってきており、それによって学校の統廃合等が進むというケースが増えてきているようにも感じております。今ほどのお話にもありましたように、その背景には、予想以上に進んでいる少子化の影響があつて、待たなしという感覚が地域の皆様にあるのではないかとと思ひます。

本委員会では、このような地域の皆様の声をできるだけ反映しなければならないと思っております。また、行政としてできること、地域としてできることがどのような形になっていくか、その点をしっかりと見据えながら、審議を続けていただくことが大事ではないかとと思ひます。

本日は、これから事務局から説明があります。それに基づいて審議をしてまいりたいと思ひます。どうぞ、短い時間ではありますがよろしくお願ひいたします。

(3) 議事

(佐藤教育総務課副課長)

それでは議事に入ります。

上越市学校適正配置審議委員会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、委員長が議長

を務めることになっておりますので、ここからの進行は、歌川委員長にお願いしたいと思いを。委員長よろしくお願ひいたします。

(歌川委員長)

しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願ひします。

それでは、議題の一つ目、上越市立小中学校における適正配置の取組状況について、事務局から説明をお願ひします。

—非公開—

(歌川委員長)

それでは、議題の二つ目、安塚中学校、浦川原中学校、大島中学校の統合に向けた準備状況について、事務局から説明をお願ひします。

**【事務局説明（小林教育総務課参事）】**

(歌川委員長)

今ほどの説明について、質問があれば発言をお願ひします。

(小山委員)

学校名について、私だったら「大浦安中学校」辺りかなと思っておりましたので、「東頸中学校」に決まって安心しているところです。こういったものはどんどん進めていかないと、関係者ではない人たちが出来もしないような無責任なことを言ってきます。そうしたときに、進めていかなければならない準備が遅れてしまうことがあるのではないかと危惧しています。

特定の声の大きい人の意見を尊重するのではなく、ルールに基づいて、丁寧に進めていってほしいと老婆心ながら思います。

(小林教育総務課参事)

大変力強いお言葉をありがとうございました。我々も考えを持って取り組んでいますので、地域の皆様にはできるだけ丁寧に説明するように心がけております。

アンケート等を行いますと、子どもがいない方など、なかなか関心を寄せていただけない方もいます。しかし、そういった方にも今現在の取組について発信をして、しっかりと理解をしていただけるように、手順に基づきながら、かつ丁寧に努めてまいりますので、今後ともご支援よろしくお願ひいたします。

(北澤委員)

先ほど教育長から、地域の活性化と学校の教育環境を作ることは分けて考えるというお話がありました。全くその通りだと思いますが、この安塚中学校、浦川原中学校、大島中学校の統合において、3年前の統合の話が出た当初は、3区でかなり温度差がありました。浦川原小学校で意見交換会を行った時には3人しか集まりませんでした。一方で、大島区や安塚区にとっては大きな問題として、PTAや地域の方々が問題意識を持っていました。

その中で、私から教育総務課の方々に、教育委員会主導で話を進めてもらえないかとお願いをしておりました。実際、昨年度からは大変スピード感を持った話の流れで進めていただいています。この統合に向けて動き出してから、3区に対して事細かに情報発信をしていただいております。その積み重ねによって、本当にいい形で統合に向けて進んでいます。

それから、地域の歴史や文化というものは、田舎に行けば行くほど、学校が重要なものになっていきます。令和6年度の統合後、浦川原区の場合は学校も一緒に行くという今までの考え方が変わってしまい、地域活動が難しくなるところが出てくるのではないかと心配しています。

そういったことは各地区で考えていくことかもしれませんが、そこがかなりネックになってくると思います。廃校活用等も、地域としては重要な問題になってきますので、教育委員会としてだけでなく上越市として、いろいろな方向性を提案してほしいと思います。ただ単に、統合したからという話ではなく、そういった部分も配慮していただければありがたいと思っております。

(瀧本教育総務課長)

ご意見ありがとうございます。今回、区をまたいだ中学校の統合ということでかなり広範囲になりますが、今まさに後援会やPTA、地域青少年育成会議、学校運営協議会を検討する部会の中で、統合後の子どもたちの関わりや今後地域をどうしていくのかといったことを検討していただいています。

通う学校は変わっても、学校が終われば子どもたちは住んでいる地域に帰ってきますし、一方で、今回の統合によって、子どもたちや地域の活動の範囲が広がるという考え方もできます。今後の学校運営についても、そういった新しいフィールドでどういった活動をしていくのかということ、学校でも、また教育委員会としても、一緒に考えていくこととしておりますので、ご理解いただければと思います。

(小林教育総務課参事)

今の課長の話に少し補足いたします。これまでの統合実行委員会には、学校運営協議会や地域青少年育成会議は参加しておりませんでした。しかし、今回3区それぞれの地域の特色を持った学校が一つになり、それぞれの地域で行っていた活動が一つになるということは、やはり難しいところがあるのではないかと考え、今回、学校運営協議会と地域青少年育成会議の方と一緒に話し合う機会を設けております。

具体的には、来年度に入りましたら、統合実行委員会の皆様に各学校の活動に参加していただき、学校の子どもたちの実際の様子と、その地域で行っている活動を見ていただくことを考えています。各学校の校長先生から、地域との共同活動にはどのようなものがあるのか、どういう理念に基づいて行っているのかといった話題提供をしていただきながら、別の地域の活動との相違点も明らかにし、各地域の特色をしっかりと取り込めるようなご意見を委員の方からいただきます。その上で、子どもたちへの負担が無いように、新しい校長先生に、これからどういう活動を一緒に行っていくのかを決めていただくと考えております。

(遠藤委員)

1点目として、まずは最低限、生徒に不安が無いようにすること、そして、どのように生徒の不安感を取り除くのかということに、まずは力を入れていただきたいと思えます。

2点目は、今回の統合は今までと違って広域であり、今後の統合の良いモデルになると考えています。そのため、ぜひ統合して良かったと子どもたちが思うようなメリットがあると良いと思います。例えば、通学時間が長くなり、家に帰ってから塾に行けない子どもが出てくるかもしれないので、どこかの塾と提携をして、夜7時ぐらいまでオンラインで自学自習ができる等、そういった取組を考えていただけると幸いです。

(小林教育総務課参事)

貴重なご意見をありがとうございました。生徒に不安を与えないということは、これまでの地域との意見交換会の中でも非常に強い希望としてありました。そのため、現在3校の校長先生方に、可能な限り3校の協力体制の下、生徒間同士の情報交換を密にすること、事前の交流を持っていただくこと、それから、教育課程を作っていく際に、それぞれの学校で学んできたことを地域学習等でいかせるように取り入れてほしいということをお願いさせていただいております。

もう1点につきましても、今後、しっかりと研究をしてまいりたいと考えております。

(歌川委員長)

それでは、最後にお一人のご意見をお伺いして、質疑を終わりたいと思いますがいかがでしょうか。

(遠藤委員)

最初に言ったことの繰り返しになりますが、今は個別最適化の時代と言われていて、学校の状況も2、3年前とは激変し、どこでもオンラインの授業ができるという状況になっています。それを逆手に取った「上越市はこういう取組をしています」「こういう学校を作って、その学校に行きたくて人が集まります」とアピールができるような研究を少しずつ進めていただければと思います。

(歌川委員長)

遠藤委員から今後の要望のご意見をいただきました。

そのほか質問はありますでしょうか。

(全委員)

なし

(4) その他

(歌川委員長)

ほかにご質問が無いようであれば、次に移ります。

委員の皆様から、全体を通じて何かご質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。

(真野委員)

先ほど、アピールができる学校が上越市にあると良いのではないかというお話がありました。

私は上越市に来てまだ7年も経っていないのですが、子育てをされていて上越市の良いところはどこだろうと考えたとき、やはり山にも海にも近いということが強みではないかと思います。

移住をしたいとか、子どもを増やしたいと思ったときにはまず親が動くので、子どもだけでなく、スキーができる、釣りができるなど、親に対してもアピールポイントがある学校もあると良いのではないかと思います。

(歌川委員長)

ありがとうございました。

ほかに無いようであれば、これにて議長の任を解かせていただきます。

委員の皆様には、会の進行にご協力いただき、ありがとうございました。それでは事務局、お願いします。

## (5) 閉会

(市川教育部長)

歌川委員長には、議事進行をしていただきましてありがとうございました。それから委員の皆様には、慎重なご審議をしていただき、誠にありがとうございました。私としましては、大変胸に響く、学びになるご意見をいただけたと思っております。

少子化の傾向は、もう止めることはできません。国全体の人口がピークを超え、減り始めてから20年近くも経っております。この上越市では以前も統廃合があり、例えば、若い方が中山間地域から新しくできた市街地に近い団地に出て行き、中山間地域の学校が統廃合になったり、片や市街地に近いところでは学校が増えたりということもございました。しかし、今はその様相も変わってきており、国全体としても、人口は減少していくと言われております。

それに対して、我々は何ができるのか。学校現場では、この変化の激しい時代に、子どもたちに生きる力を育まなければいけないと学習指導要領で強調されています。子どもたちに生きる力を育むからには、この変化の激しい時代を生きる我々も生きる力を発揮すべきであり、今がその時だと思っております。

地域から学校が無くなると寂しいという感情論だけではなく、学校はどうあるべきか、統合によってその地域の学校が無くなるとすれば、その後はどうあるべきか。そういったことを、子どもたちの気持ちも取り入れながら、大人たちが責任を持って、新しい形を作っていきたいと考えております。

本日は、実りあるご審議をいただきまして、御礼申し上げます。閉会にあたりまして、私から一言ご挨拶をさせていただきました。ありがとうございました。

(小酒井企画係長)

本年度予定をしておりました審議委員会は本日で最後となります。

皆様の任期につきましても、令和5年3月31日をもって満了となります。ありがとうございました。

なお、事務局といたしましては、審議事項の継続性を考慮した中で、学校適正配置審議委員会設置要綱第4条に再任を妨げないとの規定もありますことから、公募委員の方を除き、引き続き委員をお引き受けいただきたいと思いますと考えております。

それぞれにご都合もあろうかと思っておりますので、辞退されたい方がおられましたら、会



議終了後、事務局にお申し出いただければと思います。

3月に入りましたら、改めて委員就任の手続きをとらせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(佐藤教育総務課副課長)

以上を持ちまして、令和4年度 第2回上越市学校適正配置審議委員会を閉会いたします。委員の皆様、本日はありがとうございました。

## 9 問合せ先

教育委員会教育総務課企画係

TEL：025-545-9262（内線1030）

E-mail:kyouikusoumu@city.joetsu.lg.jp